公共交通空白地域におけるデマンド交通の必要性と課題
－山形県鶴岡市藤島地域の事例から

小館　なな海

現代社会において日本が抱えている問題の 1 つに「少子高齢化」があり、少子高齢化などの人口減少が地方に与える影響として地方公共交通の撤退・縮小という課題がある。公共交通は人々の生活を支える不可欠なサービスであるが、現在は少子高齢化やマイカーの普及などで特に地方の鉄道、バス、タクシーなどの事業者が厳しい状況にある。そのような課題に対処するため、各地域のニーズに合う交通サービスの構築が進んできている。本稿では、公共交通空白地域に対する課題を解決するために導入されたデマンド交通がどのように機能しているのか、必要性や課題についても明らかにしていく。

デマンド交通とは、複数の利用者の予約をもとに、タクシー車両やバスが各利用者宅を経由し、順次送迎する運行形態を持つ。導入自治体数やその系統も年々増加しており、今後も高齢者人口の増加に伴い、買い物や通院目的などでデマンド型交通の需要はさらに増していくと思われる。走行ルートやバス停などの指定の乗降地に縛られず、利用者の求めた地点、またはその近くまで向かえるため、徒歩での移動時間減少や健康福祉の観点からも、高齢者にとっては大きな恩恵をもたらすと言える。また、自治体にとっては、市町村バスと比較して財政支出の軽減、運行事業者にとっては、車両の有効活用や定収入確保といったメリットがあり、利便性向上につながる。

そのようなメリットのあるデマンド交通だが、課題も多くある。タクシーよりもお手頃な価格帯のデマンド交通だが、低額すぎては維持するのに困難であり、また地方のタクシー業者との兼ね合いもあるため料金体制には注意が必要である。またデマンド交通を導入するまでの利用者の予測が難しい点や、ドライバーの高齢化や人手不足などといった課題も抱えている。

本稿では現在地方における公共交通機関がどういった状況で、デマンド交通がどう機能しているのか、実際に山形県鶴岡市藤島地域を例にし、明らかにした。藤島地域長沼地区、八栄島地区で運行されているデマンドタクシーに携わっている藤島庁舎の方や、同市東栄地区のデマンドタクシーふれあい号の運行に携わっている東栄地区自治振興会の方々にもヒアリングを行った。

そのような調査を踏まえ、デマンド交通は地域住民のニーズを読み取って再検討を繰り返し、地域に根差した運行をするという部分が今までの公共交通機関とは違う最大の利点だと分かった。本当に移動に困っている人に焦点をあて、改善を繰り返してくれるデマンド交通は、これからより高齢化の進む日本にとって必要なデマンド交通であると考えられる。